



持てる資源と最新技術を掛け合わせ、時代の流れを捉える

かすみがうら市長  
宮嶋 謙氏

筑波銀行千代田支店長  
木村 正幸

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県かすみがうら市です。筑波銀行千代田支店長 木村 正幸がかすみがうら市長 宮嶋 謙氏にお話を伺いました。

## 市民の声をしっかり聴いて市政に反映

2022年7月、市民の皆様の温かいご支援により、かすみがうら市長に就任しました。私は、市民の声をしっかりと聴き、それらを市政に反映することで、地域が抱える問題や課題の解決につないでいくことが何よりも大切だと考えています。そこで、まず、市民の意見を聴く場として「地域ミーティング」を開催しました。全6回、地域に分けて開催したところ、地域特有の課題など貴重な意見をいただきました。

地域ミーティングに出られない方や学生の皆様からも日常で感じる些細な要望や疑問などを気軽にお寄せいただけるよう、広報誌に意見・提案記入用紙を同封しました。ポストに投函すると、私に直接意見が届きます。当市ホームページからも意見をお寄せいただく仕組みはありますが、より多くの声を伺うための方法として、今後も続けていきます。

### 複合交流拠点建設再検討

市民の意見を市政に反映する取り組みの一つとして、土浦市との境界に建設する計画が進んでい

た複合交流拠点施設の再検討を進めています。当初の建設用地には都市公園を整備し、複合交流拠点施設は、市街地中心部に建設する案を検討しています。施設に整備する機能についても市民の皆様意見を聴き、合意形成を図っていきます。

## 歴史資源を活用した観光

当市は茨城県で最も埋蔵文化財が多く、現在788か所あります。種類も豊富で、古墳時代の集落遺跡だけでなく、製鉄遺跡や土器を生産した窯跡なども発見され、さらに、城跡も28か所あります。

全国には「古墳マニア」や「城・城跡マニア」などコアな歴史愛好家がたくさんいます。そこで、情報発信はもちろんのこと、展示やバスツアー、体験会など様々な企画を実施することで、観光をはじめとした地域活性化につなげていきます。

最近の大きなニュースは、<sup>かざかえしいなりやま</sup>風返稲荷山古墳から出土した副葬品など53点が、新たに国の重要文化財に指定されたことです。1月31日から国立東京博物館で展示され、その後、当市でも様々な企画を通じて魅力を発信していきます。

また、城跡の活用策の一つとして、近年人気

高まっている「御城印」の発行と、それを収納する「御城印帳」を制作しています。御城印帳は昨年12月に新デザインに刷新して当市の歴史博物館で販売しており、ふるさと納税の返礼品にもなっています。

今後も、歴史資源を守るだけでなく観光資源として活用するという考え方により、古墳などの文化財を利用した観光事業を展開していきます。

## 民間企業による廃校利用の促進

当市には廃校施設が6つあります。これらは地域の財産なので、地域の方々と入居する民間企業とのパートナーシップを構築し、地域の活性化につながるような活用を進めたいと考えています。

昨年8月、霞ヶ浦地区の旧牛渡小学校の優先交渉権者に、当市に工場を有する日立建機株式会社が決定しました。ロボット建機、電動建機などを中心とした先端建設機械製品の研究開発拠点として活用され、同社との関係がさらに深まることは大歓迎です。子どもたちが喜ぶ重機やAI、ドローンを使ったイベントなどの開催も期待しています。

## ワーケーションの推進

当市は、人口減少、特に子育て世代の減少を抑えることが課題であり、魅力発信、新事業の創出や企業誘致などの促進、そして地域と民間企業の連携により関係人口を創出することで、移住者を増やす流れを作ることが必要です。

そこで当市では、地域未来投資推進課が中心となって、「ワーケーション」の推進に取り組んでいます。ワーケーションとは、一般的には「ワーク」と「バケーション」を掛け合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方を指しますが、当市では、「ワーク」と「コミュニケーション」を掛け合わせ、さらに、関係のある企業と共に創り上げる「共創型ワーケーション」をコンセプトとして、2021年度から本格的に推進しています。

2022年度はSDGs、農業をテーマとしたワーケーションを実施しました。

SDGsの分野では、「SDGs人材育成型ワーケーション」として、域内外の民間企業や学生など多様なプレイヤーを巻き込み、森林再生や古民家再生を通じてサステナビリティ感性を養うフィールドワークや講座を行いました。

今後は親子をターゲットとした「親子ワー

ケーション」として、親がテレワークをしている間に、子どもには創造力を豊かにする様々な体験を付与するなど、親子のコミュニケーションのきっかけの場として、当市ならではの働く場所と体験コンテンツを提供していきたいと考えています。

様々なテーマでワーケーションを実施したことで、私たちの気づけなかった地域の課題が見えてきたり、官民連携や産学連携、地域交流につながったり、いろいろな可能性が広がってきています。また、当市に関心を持ってくれる企業も増えてきていると感じます。今後も切り口を変えながら、今年度培ってきた関係性も活用し、様々なことを仕掛けていきます。



## 霞ヶ浦とSDGs

### 帆引き船とゼロカーボンシティ

当市南部に広がる霞ヶ浦では明治時代から「帆引き船」を用いた漁が行われてきました。当市は帆引き船発祥の地で、もともとは自然の風を利用した網漁法として考案されたものです。当市は「ゼロカーボンシティ」の宣言を予定していますが、帆引き船は、まさに地球環境と人間の共生のシンボルとして捉えることができます。

漁法としては昭和40年代前半にトロール船へと変わっていましたが、1971（昭和46）年に観光帆引き船として復活し、現在も霞ヶ浦に面する行方市、土浦市、当市の3市で夏から秋にかけて操業しています。2018（平成30）年には「霞ヶ浦の帆引網漁の技術」が国選択無形民俗文化財に選定されました。

現在、後継者の育成が課題となっていますが、貴重な歴史資源・観光資源として、3市で協力して保存・継承、活用に取り組んでいきます。

### 霞ヶ浦湖上でのドローンによる物流実証実験

霞ヶ浦沿岸では、物流にドローンを活用することにより、化石燃料の削減や労働時間の短縮を図ることが期待できます。そこで、「霞ヶ浦湖



上広域輸送ライン」形成実証事業として、当市と美浦村間を、荷物を積んだドローンで運搬する試験飛行を行いました。

その結果、陸路だと目的地まで1時間かかるところ、10分程度で運搬することができました。2022年12月に、市街地を含む有人地帯での目視外飛行（レベル4）が解禁されることから、土浦港、茨城空港との連携も視野に入れた広域湖上ラインの拡大を目指していきます。

ドローンを運用したのは、福島県に本社を置く「株式会社eロボティクス」で、同社には当市に新会社を設立し、拠点を置いていただきました。今後は物流から農業、インフラ点検などへと活用を広げ、高齢化や働き手不足への対応や雇用、地域活性化にもつなげていきたいと考えています。



## クラウドファンディングと天然うなぎ

当市は、産業振興に資する事業を実施する方に対し、「クラウドファンディング活用支援」としてクラウドファンディングの利用手数料を補助しています。いろいろな提案の一つに「天然うなぎ村建設プロジェクト」があり、同プロジェクトのクラウドファンディングは目標金額を大きく上回り、順調に進行しています。

このプロジェクトは、みんなの思いが詰まった場所（うなぎ村）を新設し、うなぎ漁を体験して、取れたうなぎを味わってもらおうものですが、プロジェクト実行者の目指すところは、この体験から広がる大きな輪＝コミュニティによって地元の活性化に役立てたいというものです。このような取り組みを通じて、霞ヶ浦の水産業の振興、水産資源の保全につながることを期待しています。

## 農業の付加価値向上

### 農作物のフードロス解消に向けて

当市は、「未収穫果樹再生プロジェクト」として、果樹園で収穫しきれずに廃棄される農産物（フードロス）の削減に取り組んでいます。

ブルーベリー農園を運営する当市宍倉の「坂農苑」では、年間に実る30トンのブルーベリー

のうち20トン进行収穫・出荷していますが、残り10トンは自然落下などで未収穫となり、廃棄されています。

そこで、筑波大学の学生に、ブルーベリーの収穫とそれを原料にした新商品の開発や商品デザインの考案をしていただき、有名コーヒー店や大手老舗ウエディング企業の協力のもと、商品化・販売等の検討を進めています。また、同大学構内のカフェで食品ロスの削減につながるアイデアを競うコンテストを開きました。今後は、農業と食育や福祉などを掛け合わせ、相乗効果が発揮されることを期待しています。

## 農業×ワーケーション

当市は農業に優位性があり、果樹産出額は茨城県内で1位です。その一方で、生産者の高齢化により収穫が困難になったり、後継者がいなかったりといった問題も山積しています。

そこで、「共創型ワーケーション」の1つ、「アグリワーケーション」として、農業体験やスマート農業技術実証に取り組んでいます。この事業を通じて、アグリテック企業の呼び込みにもチャレンジし、農家の作業負担の軽減や生産性の向上を図り、後継者の確保にもつなげていきます。

## 給食材料にオーガニック食材を採用

魅力的な学校づくりの取り組みの一つとして、給食におけるオーガニック食材比率の向上を推進していきます。給食食材の地場産比率を高める取り組みはほとんどの自治体が行っていますが、オーガニックを前面に出しているところは少ないと思います。これは農家にとっては大きな挑戦になりますが、学校給食という受け皿があることで思い切ってチャレンジして付加価値の向上につながり、安心安全な食材で子ども達の健康も増進されます。また、学校給食にオーガニック食材が採用されている市として、市外の子育て世代の方々へのPRにもなると考えています。

## 筑波銀行に期待すること

筑波銀行には、市政運営や株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーへの出資などに協力していただいております。今後も様々な形での連携に期待しています。

また、当市の周辺地域に暮らす高齢者に対して、金融サービスが十分届くような対応を引き続き行っていただきたいと思います。

（取材日：2022年12月8日）



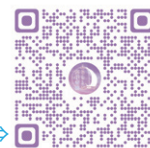


# わがまちのふるさと納税

—かすみがうら市—

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

## 豊富な地域資源を生かした返礼品



詳しくはこちら⇒

かすみがうら市は年間を通しておだやかな気候のため、梨、栗、ぶどう、いちごなどの果樹、さつまいも、れんこんなどの野菜、さらにはお米なども多く生産されています。

また、霞ヶ浦に面しているため、わかさぎやシラウオを使った佃煮などの加工品も人気です。



果樹



お米



農産物加工品



佃煮



### サイクリングツアーチケット

ナショナルサイクルルートにも指定されている霞ヶ浦沿いのサイクリングロードでは、気持ちの良い風を受けて自転車で走ることができます。

自転車で観光スポットを巡ったり、果樹狩りをして果物を味わうことのできるサイクリングプログラムは、人気の返礼品です。

### 古民家ゲストハウス宿泊券

明治後期に建てられた元は造り酒屋だった建物が、ゲストハウスとして生まれ変わりました。

眼前に広がる霞ヶ浦を眺めながら静かな時間を過ごしたり、裏庭でテントを張ってキャンプやバーベキューを楽しむこともできます。

このゲストハウスの宿泊券を返礼品としてご用意しています。

